

# 年次支部ニュース

第15号



箱根駅伝予選会  
 中大2位  
 本選出場決定!!

【左】準硬式野球部にバットケースを寄贈 【中上】オリンピックに出場した現役学生：ハンドボール・部井久アダム勇樹さん(法4)  
 【中下】同：フェンシング女子フルール・上野優佳さん(法2) 【右上】同：水泳・池本凧沙さん(法1) 写真提供：中大スポーツ◎

## 年次支部協議会代表幹事ご挨拶

# コロナ禍でこそその ONE CHUO

年次支部協議会 代表幹事  
 清野 強  
 (白門50会支部長)



昨年4月に年次支部協議会の代表幹事に推薦され就任しました。昨年からコロナ禍におきまして、大学・学員会の活動が制約される中、ご挨拶が遅くなりましたこととお詫び申し上げます。母校中央大学、学員会、年次支部協議会の発展と興隆のため、今後一層努力して参りますので、皆様方の絶大なご協力をお願い申し上げます。

さて、学員会は地域支部、職域支部、年次支部で構成されていて、それぞれの特性を生かしながら活動しています。年次支部協議会は、昭和

30年卒業の大先輩支部から新卒の若い支部まで、唯一、誰もが参加できる各単年次支部(62支部)を繋いで活動してきた伝統ある組織です。2014年度より順送りだった執行部を組織変更して、幅広い世代の役員構成に変え、活発な意見交換や交流を行ってきました。さらに、2018年4月からは一局三部制(事務局、大学・学員交流部、学生後援部、広報部)として新たに改組してスタートさせ、中堅支部層の役員が中心となり、コロナ禍においても開催できるオンライン会議などを利用しながら情報交

換、チャレンジ企画など新しい風を取り入れた活動も始め、若手支部の活性化の課題についても取り組んで参ります。

国難ともいうべきコロナ禍では、人流分断により社会生活スタイルも大きく変化しましたが、こんな時だからこそ、同窓生の絆【ONE CHUO】の精神が心のよりどころとなることを祈念し、執行部一丸となって、母校及び年次支部協議会発展のためにより一層努力していく所存です。皆様のご理解、温かいご支援とご協力をお願い申し上げます。

# 酒井総長退任、7年間の思いを聞く



**司会** 平成26(2014)年11月より7年間の重責、お疲れ様でした。職務を全うされたと拝察いたしますが、いまの率直なお気持ちは？

**酒井** 7年は総長・学長兼務の前半と総長単独の後半ですが、一つの区切りがついたという気持ちです。任期中に策定した「Chuo Vision 2025」が形になり始めているので、期待とともに残された課題も含めて関心をもって見ていこうと思っています。

**司会** どんな期待をお持ちですか。

**酒井** やはり都心回帰にける期待は大きいですね。これによって一層の浮上となり、「中央」の名がより輝きを増して早・慶・中央と並び称されるようになってほしいと期待します。

**司会** 残された課題とはどんなことですか。

**酒井** 「Chuo Vision 2025」はまだ途中なので、課題が残っています。その一つは多摩キャンパスにおける教育・研究体制面での改革です。法学部が移転することで、多摩から失われるものは何か、その点の本格的な議論はこれからだと感じています。

**司会** 任期初めの平成27年5月の評議員会で、中長期計画事業の取り組むべき喫緊の課題として8つの項目

を挙げておられますね。

- (1)入試政策の策定
- (2)研究環境の整備と評価の推進
- (3)キャンパスの整備
- (4)教育組織の改編・創設検討
- (5)スポーツ振興策
- (6)中長期財務計画
- (7)グローバル化の推進
- (8)付属校を含む総合学園力の向上

これらは大部分が実現されたと認識しておりますが、ご自身の評価はいかがでしたか。

**酒井** (1)の「入試政策の策定」は、例えば志願者増やその質向上を目指したものでしたが、一昨年(2019)は本学最多約9万2000人の受験者数を記録しました。質の向上も、法学部の都心回帰で偏差値が上がる可能性は高くなるでしょう。問題は多摩に残る他学部をどうするかです。法学部移転の相乗効果として全体の底上げができるかが今後の課題です。

(2)の「研究環境の整備と評価の推進」とは、一つには“科学研究費補助金”採択率の向上対策があげられます。補助額は増えているものの、たとえば7~8年前は採択率が明治大学より上だったものが今は追い越されています。これは学内の研究制度と一体のものとして捉え、申請のサ

ポート体制の整備や学内研究費の傾斜配分システムの導入などが今後検討されるべき課題と思っています。

(3)の「キャンパス整備」はある程度進みました。都心展開の実現はじめ、多摩のキャンパス整備も法人・教学執行部および教職員の皆さんの頑張りで見えてきました。

(4)の「教育組織の改編・創設検討」は、道半ばといったところです。新学部の創設は一定の前進を見ましたが、学長当時より構想があった理工学部の改革やスポーツ系学部創設の可能性をめぐってもっと議論を深めたかった、という想いです。また、“煙突型大学院”の再編の是非という大きな課題も残っています。

(5)の「スポーツ振興策」は力を入れたのですが、推薦生204人(一学年)を公認運動部33部会に配分するさいのルールの見直しの議論は手つかずのまま残っています。個人的にはもう少し戦略的に考えるべきではないかと思っています。「学生を宣伝に使ってはいけない」という意見もあり、その点はそうだとは思いますが、一方でスポーツにより構成員の大学への帰属意識が高まることもまた事実です。この点、さらなる全学的議論を期待したいと思います。

(6)の「中長期財務計画」ですが、一定の借入金をして「Chuo Vision 2025」に踏み切った経緯から、その先の財務計画が大事だと思っています。いま、財政収入の8割弱が学納金(学生生徒納付金)です。それを値上げすることは現在の状況下ではとてもできません。“入るを削って出るを制す”べきなのでしょうが、それには研究費や人件費を含めて合理的調整に向けた全学部的な議論が必須であると思われます。

(7)の「グローバル化の推進」のポイントは、海外からどれだけ評価さ

ますが、コアになる学生を育てるシステムは出来ていません。附属中高間の連携も非常に密とは言えず、この点を含めて体系的に取り組みが必要です。

**司会** こうしてみると大変な時期に総長・学長の任に就かれたことがわかりますが、それを乗り切った精神的支柱は何だったのですか。

**酒井** それは“学生の勉学環境を良くしたい、教職員の職場環境を改善したい”という思いですかね。中央大学の名を顕揚すべく力を尽くしたい、という想いだけは人後に落ちな

が結束して文科に対して共闘してくれたのが、ほんとうにありがたかった。それが一番の思い出です。

**司会** 辛いことばかりではなかったのですね。

**酒井** もちろんです。多くの人に助けられましたし、励ましも受けました。うれしいといえば、週刊誌や月刊誌、ほかの書物でも新聞でも、“中央大学”という文字が目につけば必ず購入して読みました。良いことが書いてあるとうれしくて、大きな励みになりました。事実と違ったことが書いてあれば関係者あて指摘し、認識を正しました。

**司会** エピソードをお聞きして人間性を垣間見た気がします。座右の銘は何ですか。

**酒井** 口幅ったいですが、老子の言葉で「上善如水」をモットーにしています。じょうぜんはみずのごとし “水は万物を利してしかも己を主張せず”、とって他と功名を争うことがない。人は高みを望むが、水は低いところへと流れていく。低いところにいるからこそ、流れて大河となり海へ注ぐ。ちなみに、新潟に同名の日本酒があると聞きます。

**司会** 年次支部協議会をどのようにご覧になっていましたか。

**酒井** 接点はあまり多くはなかったのですが、年次支部は同窓会の基本支部だと評価しています。ただ、全員参加ができる支部組織なのに必ずしも存在感は高くない。もっと自己主張をしていいし、年次支部として独自の展開もできるはずですので、頑張っていたきたいと思います。

**司会** 最後に、これからの大学・学生・学員に残したい言葉は何ですか。

**酒井** 中央大学の伝統をともに誇り、ともに伝えて、日本を代表する大学であり続けてほしい。

**司会** 本日はありがとうございました。(聞き手:佐藤愛子広報部長)



慰労と感謝の花束贈呈

れるかです。海外に提携校を増やすことができ(196大学・研究所)でも、実質的な交流ができてくるかが大事で、本学を選んで留学しに来る学生がどれだけいるか(明大の半分、早大の5分の1)を見ると本学の評価は十分高いとは言えません。グローバル館・国際教育寮の建設は、グローバルキャンパス化に向けた努力の一環です。また2019年度に創設した国際経営学部は、英語で授業を行うなどグローバル化に一步步を進めましたが、まだまだ取り組むべき施策は少なくありません。

(8)の「総合学園力の向上」ですが、定義が難しく取り組みは遅れています。付属高校4校・中学2校があり

いものがあると自負しています。

**司会** その7年間の在任中、最も思い出に残った出来事は何でしょうか。

**酒井** まずは26年ぶりの新学部の創設ですね。中長期事業計画に着手して、戦略会議が立ち上げられ初代議長に就きました。その時、23区内では今後10年間学生定員増は認めないという時限立法ができました。すでに機関決定して予算も建て、相当な準備をして外部への広報も始めていたので、何とか認めてほしいと文科省をはじめ、関係の国会議員へ請願もしました。ほかにも4校そういう学校があり、私大連が応援してくれました。普段は競争心を燃やした切磋琢磨している他大学の学長たち

# 特集 ホームカミングデー(オンライン)

## 歴史を抱えて、未来を語る。

コロナ禍にあって昨年、中止を余儀なくされたホームカミングデー。今年初の試み「オンライン」開催。

目玉企画の一つが『オードリー・タン台湾IT大臣と中大生のプレミアム・トーク』だが、学生が先ず大臣に投げかけたのが「世代間に生じるデジタルデバイド(情報格差)の

解消法は」の問いだった。そう、今回の企画に当たっての障壁も「デジタルデバイド」。ネットやパソコンが身近でない世代の先輩方にも「オンライン」のホームカミングデーを楽しんで頂くべく工夫を凝らせるか。克服の如何は当日兎に角、スマホを手し、パソコンを前に試して頂くしかない。

卒業後51年、50年の諸先輩方に

は「駿河台」を懐かしんで頂き、卒業後26年、25年の諸氏には指導者が同世代となる今夏のオリンピックとの交流企画を用意した。

未来は誰もが語れるが、歴史を抱えて未来を語ることの出来る「中大の学员」を満喫頂ければ企画者冥利に尽きる。当日を御期待願いたい。

HCD実行副委員長(学生会副会長)

山本 卓(年次支部協議会顧問)

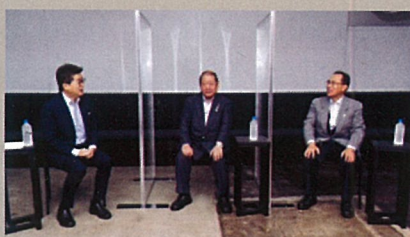
## 当日番組表

開始	タイトル(内容・出演者など)
10:40	125式典「威風堂々」(音楽研究会演奏)/開会宣言(清川昭運営委員長)
10:48	主催者・協賛者挨拶(大村理事長、河合久学長、久野修慈学生会会長)
11:00	第1回学员荣誉授賞式—中村憲剛・加奈子学员夫妻、母校に凱旋帰校!— 出演:中村憲剛氏(受賞者)/司会:曾根純恵キャスター日経CNBCキャスター(*ライブの場合のみ)
11:24	CHUO 8 STORIES「多角的な視点を持つ」(国際情報学部の学生:遠藤朱音さん)
11:30	「台湾の天才」と時代の最先端を見てみたくはないか —オードリー・タン台湾IT大臣と中大生のプレミアム・トーク— 出演:オードリー・タン台湾IT大臣、齋藤ゼミ生、青木ゼミ生、齋藤正武教授、青木裕子教授
11:59	CHUO 8 STORIES「相手の話に耳を傾ける」(法学部の学生:佐宗玲音さん)
12:05	「白門法曹の三傑(増島六一郎、花井卓蔵、吉田久)」由来の鼎談 in「花井記念室」 出演:大村雅彦理事長、久野修慈学生会会長、才口千晴弁護士・元最高裁判事 司会:青木裕子法学部教授(花井卓蔵御曾孫)
12:54	CHUO 8 STORIES「好奇心と行動を軸に」(経済学部の学生:新田翼さん)
13:00	VR&寸劇「中央大学 源流、記憶そして未来へ」(125周年式典上演) 出演:柳家喬師匠(落語家)(卒業生)、宮ヶ原千絵氏(卒業生)、吉岡拓麻氏(上演時3年生)/台本・演出:黒田絵美子教授
13:34	CHUO 8 STORIES「僕が大学に行く理由」(文学部の学生:修一郎さん)
13:40	動画「駿河台の記憶」(あふれだす記憶のかけら、消えない駿河台の記憶)
13:49	CHUO 8 STORIES「多様な価値観に触れた日々」(総合政策学部の学生:宮原茉紀さん)
13:55	旧「学生会館」で卒業後、51年、同50年の両年次支部長が語る中央大学の来し方行く末 出演:相場有二白門45会支部長、半澤勉白門46会支部長/司会:NHK山本哲也アナ
14:24	CHUO 8 STORIES「故郷・沖縄に貢献したい」(国際経営学部の学生:長浜史紅さん)
14:30	駅伝の藤原正和監督、飯塚翔太選手も参加!第5回白門駅伝オンライン/表彰式 講評:藤原正和駅伝監督、飯塚翔太選手/白門駅伝エントリー選手たち
14:57	CHUO 8 STORIES「公認会計士試験の現役合格を目指して」(商学部の学生:中小原杏優さん)
15:03	卒業後、26年、同25年を迎える年次支部長挨拶(大谷明白陽会支部長、大崎玄長白縁会支部長)
15:09	CHUO 8 STORIES「人と向き合いたい」(理工学部の学生:鈴木悠さん)
15:15	飯塚翔太選手の豊田裕浩コーチ(1996年卒業)が白門オリンピックと語る 出演:豊田裕浩コーチ、飯塚翔太選手をはじめとする白門オリンピック/司会:曾根純恵日経CNBCキャスター
16:00	閉会挨拶(野口昇兵実行委員長)/応援部「校歌」「応援歌」

\*当日の各番組・各コンテンツの内容及び配信時間については、変更となることがあります。最新の情報は、ホームカミングデー特設サイトにてご確認ください。

動画コンテンツ一覧 11/15～順次プレ配信

ジャンル	タイトル (内容など)
大学紹介	<b>中央大学の創立～増島六一郎と英吉利法律学校～</b> ・中央大学の前身でもある英吉利法律学校の創設者の一人であり、初代校長でもある増島六一郎の物語。
大学紹介	<b>教養番組「知の回廊」</b> ・大学の知的財産を教養番組という形で、既存の「見るだけのテレビ」から「学びの宝箱」へと進化させた放送番組 ・八王子市、多摩市、立川市、日野市などといった近隣地域を中心に、全国20社以上のケーブルテレビ局で放送中
大学施設紹介 受験生対象	<b>大学キャンパスツアーと中央大学で学ぶ学生たちのストーリー</b> ①学生によるキャンパスツアー（多摩・後楽園・市ヶ谷田町） ②VR（仮想現実）キャンパスツアー（凸版印刷制作） ③中央大学 360° パノラマツアー ④新しい学びの空間 FOREST GATEWAY CHUO オープン！
学生活動紹介	<b>学生を思わず応援したくなる動画の数々</b> ①白門祭オンライン企画参加団体（企画コンテスト入選団体中心に） ②学友会体育連盟所属クラブ ③学友会文化連盟所属クラブほか
支部活動紹介 学生生活動紹介	<b>学生白門祭とのコラボで実現！「仮想空間」での支部活動と学生生活動の展示ブース</b> ・バーチャル（仮想）空間上での室内展示企画 ・【支部活動報告】【学生生活動（クラブ、ゼミ、ボランティア）発表】ブースで構成
支部活動紹介	<b>「オンライン開催」ならではの海外を結ぶ第3回白門オンライン・ミーティング</b> ・海外支部をオンラインで繋いで「コロナ禍の活動」などをテーマに意見交換
受験生対象	<b>キミハルシネマ・フェスティバル 2021</b> ・学会が贈る若き映像クリエイターのための映像コンペティション ・「夢」と「希望」をテーマに応募総数130作品の短編映画から優秀作品等を上映



両支部長の対談

卒業後51年50年の白門45会相場支部長と白門46会半澤支部長が、懐かしい駿河台の旧「学生会館」（現在はトヨタ社員寮を経てシェアオフィス）で、当時の思い出を語りあいます。当時の様子をVRの寸劇、動画の「駿河台の記憶」など見ながらお楽しみください



旧「学生会館」

飯塚翔太選手が卒業25年を迎える豊田裕浩コーチとオリンピック出場選手たち（数名）と語る東京オリンピックをライブ配信する。卒業26年25年の招待学年はウエビナー事前登録などでチャット参加できる特典があります。



豊田裕浩コーチ



飯塚翔太選手

ホームカミングデー特設Webサイトは以下のURLまたはQRコードからご覧になれます

<https://chuo-hcd.com>



# 年次支部のページ



中央大学校友会三十年会第41回定時総会 令和2年3月7日 於アルカザリアホテル

## 感謝の解散総会

三十年会会長 堀合 辰夫

三十年会は、令和2年3月の総会で、同年12月31日限りで解散することを決議、残余財産は学会会に寄付、残務決了の後、学会会支部設置規程第10条第2項に基づき、令和3年5月11日付で、学会会長宛、支部解散承認申請し了承を得たところです。

昭和50年、寺口真夫氏初代会長により、帝国ホテルで295名出席の創立総会をして以降、2代中村泰治氏、3代田中美登里氏、4代岸巖氏、平成19年から私が15年間、最後の会長を務めることになりました。

おかげを持ちまして三十年会は、留学生を励ます会を主催、後にこれを大学が引き継いで大学自体の行事

にして下さるなど、年次支部の中では常に中心的な存在として積極的に活動し、会員の親睦と母校支援に尽くして来たことを自負している次第です。

設立時には、法、経、商、文、工、5学部合わせて3000人の名簿登録できた程の盛況でしたが、40年後の最終の総会出席者は19名でした。

しかし、毎回の総会には、法人理事長、大学総長、学長、学会会長等、夫々の代表者、並びに、隣接年度の白門二九会、白門三一会の各会長にもご臨席いただき、白門同窓生一同交流の機会を持つことが出来たことに、三十年会員一同心から感謝しております。

また、年次支部協議会の皆様とは、会創設以来40年の長きに亘り殊の外、親しく交流させていただきました

解散総会集合写真

たし、私個人としても協議会副代表を務めさせていただくなど、親しくご指導いただきましたことに、心よりお礼申し上げます。

この間、折に触れお互いに母校に対する熱き思いを語り合い、行動してきたことは、何物にも替えられない宝です。三十年会の会員にとって大きな活力になっていたことです。解散総会では、三十年会員で元学会会長の中山正暉氏の国会議員の経験を踏まえた格調高い講演を聞くことが出来ました。

掲載の集合写真は、三十年会の専属カメラマン(?)田中常雄氏のシャッターです。感謝を込めてご報告まで。

## クラシック鑑賞会や山歩き、町歩きなど 40年会のイベントは多彩

白門40年会会長 大泉 清



多峯主山での四十歩行会

平成8年(1996年)創立総会を開催して以来25年、白門40年会は現在約400名の会員で活動中。同期には元外相・元自民党副総裁だった高村正彦君がいます。毎年4月に定時総会を開き、「銀座での暑気払い」「四谷での忘年会」などのイベント(行事)を決め、食事をしながら懇親を深めています。行事の中でユニークなのは毎年夏のクラシックコンサート鑑賞会(赤坂のサントリーホール)。コロナ禍とはいえ、昨年も今年も実施して東京交響楽団の演奏するベ-

ーヴェンやチャイコフスキーの名曲を堪能しました。

山歩きや町歩きは「四十歩行会」、「わが町散策」と呼んで、年に数回ハイキング気分を楽しんでいます。今年は5月30日(日)に有志だけで富岡市・富岡製糸場を訪ね、日本の近代産業を牽引した絹産業遺産(世界遺産)に触れて来ました。最近の「四十歩行会」は9月26日(日)、埼玉県飯能市の多峯主山から天覧山への山歩き。

午前10時40分に西武池袋線飯能駅改札口に有志9名が集合し、まず多峯主山へ。ガイドブックには「山峡に歴史を訪ねるコース」とある。名栗川に沿って歩き、やがて登山道入口へ。低い山(271m)だが、登り始めると道はスロープ状ではなく、急な

木の階段。おまけに「マムシに注意」の看板があちこちに出ている。1時間ほどで山頂へ。私の感覚では、八王子の高尾山の登りより厳しかった。昼食の後、隣の天覧山へ下る。くさり場のある岩場で下りも厳しい。少し雨がぱらついてきたが、もう汗だくだくの道中だった。帰宅後に、参加者の一人から「万歩計は2万歩を超えていたが、久しぶりの遠出でストレス解消になった」とのメールが届いた。

緊急事態宣言も解除になり、12月は忘年会、神奈川県伊勢原での「みかん狩り」、国立能楽堂での狂言の鑑賞会を予定しています。



今年もやりますみかん狩り

## 卒業50周年を迎えて

白門46会会長 半澤 勉

昭和42年4月、社会情勢が厳しい環境の中で入学し、学生運動、学園闘争による学園封鎖等乗り越え勉学に励み、昭和46年3月卒業証書を胸に抱き、それぞれが大きな夢を描いて社会に飛翔、各分野にて活躍を続けて今年令和3年3月、めでたく卒後50周年を迎えることができました。しかし、同時にコロナ禍一色に覆われた杞憂すべき毎日も経験することとなり改めて天災は忘れたころにやってくるという寺田寅彦のこトバを思い起こすこの頃です。

思い起こせば、我々団塊の世代同期は学園紛争の余波を受け、卒業式にもあずかることのできなかつた年次でありましたが、卒業27年後の平成10年6月、学生仲間としての母校愛、同志愛、強い絆をモットーに



卒業50周年を迎えた白門46会の皆さん

結束、学員会179番目の白門46会支部を立ち上げました。

爾来、定時総会をはじめ毎月の幹事会や適宜行われる各種イベントそして学員会、大学の行事に参加するとともに、各種募金活動にも積極的に協力を行うなど、会員の理解、協力のもとに支部活動を行い今日に至っております。

コロナ禍でのイベント参加自粛は続けておりますが、本年8月には卒業50周年記念誌「白門の絆 よんろく」を発刊したほか、定時書面総会の開催、ホームページ、メーリン

グリストの整備、定期幹事会のリモート会議継続など更なる会員同士の結束強化を図っております。また、大学の商議員、学員会の幹事、協議員となり積極的に外部活動にも参加させていただいております。

まだまだ新型コロナウイルス禍の収束については予断を許さないものがありますが、ワクチン接種も進んでおり、また、新しい治療法や新薬などの施策により徐々に新しくも安心安全な生活を確保できる一条の光の条件が整いつつあることを期待し、感染予防対策も怠ることなく、これからは大学、学員会とともに白門46会も前広に歩んでまいりたいと思っております。白門46会支部へのご指導、ご鞭撻よろしくお願いたします。

## 中大生の中大生による中大生のための 白門57ネット落語会開催

白門57ネット支部広報役 二川 友子

白門57ネットは、昨年中止を余儀なくされた夏の恒例イベント「中大の中大生による中大生のための白門57ネット落語会」を今年はオンラインにて開催いたしました。

ご出演頂いたのは若手売れっ子の林家つる子さん(文学部出身)。演目は「反対陣」古典落語につるさんの若さ溢れる動きが加わり、中大多摩校舎付近の様子を織り交ぜ大いに笑わせていただきました。もう一つは、さがみはら若手落語家選手権で優勝に輝いた演目、「しじみ売り」。ジーンと心にしみ勇気をもらえる演目でした。つるさんは先の見えないこの状況にあっても、必ず良いと

きはやってくる。そんな思いを伝えたくてこの演目を選ばれたそうです。講演の後は懇親会も開催いたしました。もちろんつる子さんにも参加いただき普段は聞くことのできない落語界の裏話やつるさんご自身のプライベートまでお聞きし大変盛り上がりました。初めての試みは大成功だったと思います。開催の裏には、慣れないパソコン、スマホ操作に四苦八苦しなながら、オンラインでの打ち合わせ、リハーサルと重ねました。またつるさんの事務所の方にもご指導いただき助けられました。リアルで開催できない寂しさはありますが、オンライン開催だからこそ普段



オンラインによる参加者たち



地方からの参加も多数

は参加にご負担がかかる地方分会の皆様にも多数参加していただけたことが、新たな価値の発見となりました。

# スポーツ応援のページ

## 学生後援部の活動

学生後援部は、コロナ禍による環境変化にも柔軟に対応し、キャリア形成プログラムの実施と学生スポーツの応援という二本柱で今年も元気に活動中です。

キャリア形成は、新たに一新会支部の方にも企画段階から加わって頂き、今年もオンラインで開催中。価値観の多様性を認識し、自身で切り開くキャリアに自信をもち社会へはばたく学生を輩出する支援というゴール目標は変えないものの、全4回程度の連続性のあるプログラムを10月から22年3月にかけて開催、自身のキャリアを深く考えるきっかけを提供します。また、プログラム開催日以外にも気軽に相談できるメンター制度を試験的に導入し、支援体

制を強化します。

学生スポーツ応援は、年次支部協議会に関係者がいる、学生後援部の企画遂行に対して、リレーションの構築、あるいはその関係性を強化することを目的に、昨年同様、男子バレーボール部と準硬式野球部の活動を応援中です。

男子バレーボール部について、秋のリーグ戦は、男子一部Bグループの2位で着地。

準硬式野球部について、今年は大活躍の1年です。関東地区大学準硬式野球選手権大会(3月)、東都大学準硬式野球春季一部リーグ(5月)、THE ROOKIE TOURNAMENT(6月)、東都大学準硬式野球秋季一部リーグ(10月)と四冠を達成。春秋のリーグ戦はこれで4季連続66回目の優勝です。夏の悪天候で順延され

た全日本大学準硬式野球選手権大会(9月)はベスト8で惜しくも敗退でしたが、残る関東王座決定戦(11月)も応援致します。

尚、年次支部協議会として、9月20日に行われた秋季リーグの対専修大学戦を観戦し、終了後に年次支部協議会より準硬式野球部からリクエストのあったバットケースを寄贈しましたので、お知らせ致します。

(文責：学生後援部\_久保)

贈呈式ならびに試合観戦の様子



(写真1枚は表紙に掲載)

## スポーツ選手の活躍

### 2020東京オリンピック・パラリンピック出場選手(学生・OB/OG)・監督・コーチ

#### ●陸上競技 ■ 200m

飯塚翔太(ミスノ：2014年卒)

#### ●水泳 ■ 競泳4×100mフリーリレー

塩浦慎理(イトマン東進：2014年卒)

#### ●水泳 ■ 競泳200m背泳ぎ

砂間敬太(イトマン東進：2018年卒)

#### ●水泳 ■ 競泳4×100mフリーリレー

大本里佳(ANAイトマン：2020年卒)

#### ●水泳 ■ 競泳4×200mフリーリレー

池本風沙(イトマン：法学部1年)

#### ●ボクシング ■ 男子ウエルター級

(63~69kg)

岡澤セオン(INSPA：2018年卒)

#### ●ハンドボール(レフトウイング)

杉岡尚樹(トヨタ車体：2017年卒)

#### ●ハンドボール(レフトバック)

部井久アダム勇樹(法学部4年)

#### ●バレーボール(セッター)

関田誠大(堺プレイダース：2017年卒)

#### ●バレーボール(アウトサイドヒッター)

キャプテン 石川祐希(パワーバレー)

ミラノ(伊)：2018年卒)

#### ●フェンシング ■ 女子サーブル個人

江村美咲(立飛ホールディングス：2021年卒)

#### ●フェンシング ■ 男子フルーレ団体

(リザーブ) 永野雄大(NEXUSフェ

ンシングクラブ：2021年卒)

#### ●フェンシング ■ 女子サーブル個人・団体

上野優佳(法学部2年)

#### ●7人制ラグビー

羽野一志(NTTコミュニケーションズシャ

イニングアークス：2014年卒)

#### ●パラ水泳監督

上垣 匠(日本パラ水泳連盟：1997年卒)

#### ●ボート監督

三好 悟(日本ボート協会：1986年卒)

#### ●カヌー競技(スラローム) コーチ

木立 彰(A'GROVE：1992年卒)

#### ●自転車競技コーチ

柿木孝之(Blue Wych合同会社：1994年卒)

#### ●陸上競技コーチ

豊田裕浩(中央大学：1996年卒)

### 中大OB碓井哲雄さん、逝く !!

昭和30年代に不滅の総合6連覇(1959~64)を果たした中大の主力選手として活躍され、箱根駅伝大会のテレビ生中継の解説者を長い間務められていた碓井哲雄さんが、9月に79歳で急逝されました。心よりご冥福をお祈りいたします。



《年次支部ニュース 第15号》 2021年11月8日発行

発行者/中央大学学生会年次支部協議会  
発行人/清野 強  
編集/年次支部協議会広報部

〒101-0003 東京都千代田区一ツ橋2-6-3 一ツ橋ビル4階  
TEL 03-6261-1615  
印刷所/株ディスカバリー